

「おひさまの会」会員の皆様へ

第41回 おひさまの会 「川柳を楽しもう」報告

平成28年9月3日（土）午後2時～4時

会場：MM線日本大通り

東ビル4階

講師：熊田 松雄氏

今回のおひさまの会は、講師に熊田先生をお招きして「川柳を楽しもう」をテーマにお話しいただきました。

熊田先生は、在職中の学級担任時から川柳を通して子供たちと交流し、管理職になっても

「川柳教室」を開き交流を深めて、現在も幅広い年代の方々に川柳の楽しさを伝えていらっしゃいます。先生の気さくで明るいお人柄とともに、とてもわかりやすい話し方で川柳の成り立ちや、作り方のポイントなどを教えていただき、久しぶりに生徒の気持ちになって楽しく学ぶ時間が心地良く、貴重な時間を持てた事を熊田先生に感謝を申し上げます。



以下に、今回の「川柳を楽しもう」の報告をさせていただきます。

◎川柳とは何？

川柳は、五七五の定型の中に日常生活の気持ちと言葉を合わせることを楽しむことが大切。世界で一番短い詩歌で、日本語の特徴を活かした文章。

古くは和歌に始まり、短歌、連歌、俳諧、俳句、川柳と面々と日本の国民文芸として続いている。

江戸時代の柄井川柳の「排風柳多留」が流行ったことが川柳の語源。

その時代は、投句して当選するとお金がもらえた為、庶民の中に広まり、一度に何万もの句が集まったようです、字の読める人がそれだけ沢山居たということがわかります。

◎俳句と川柳の違いは？

五七五の17文字は俳句、川柳共通。

俳句は主に自然や風景を題材にし、川柳は口語体で季語や切れ字がなく、人物や日常社会などを題材に五七五に気持ちと言葉を合わせて楽しむ。季語を入れても自由、正式な書き方は一行縦書きで書く。

◎川柳は五七五のリズムあそび

- ・お兄ちゃん くしゃみするとき こっち向く
- ・兄弟で 下の子泣くと 俺のせい

などのように五のかたまりと七のかたまりで、言葉をつないで自分の言いたいことや気持ちを伝え楽しむ。下の五文字がうまく入るとまとまり易い。

- ・「母いない ゲームができる パラダイス」
- ・「起こすとき 母は 時間を 遅く言う」
- ・「我が子より よその子ほめる 父と母」
- ・「お年玉 玉ではなくて 紙が良い」

など 沢山の子どもたちの川柳も紹介されました。思わず微笑んでしまいます！ 川柳をクラスの中で楽しんでいくと、クラスの中があたたかい雰囲気になると熊田先生は話されました。

◎いよいよ、川柳作り！！

※日常の生活の中から（電車、バスの中など）考えてみる。

※最初に上五文字を考えると、次に続けやすい。

※思い浮かんだ言葉をまず出して、整理していく などを先生からアドバイス頂いて出来た作品です。

- ・気の毒ね お昼に帰る 夫持ち
- ・仏頂面 孫の前では えびす顔
- ・我が夫 「ごめん」と言った ことがない
- ・医者と言う 何でもかんでも 加齢です
- ・ダイエット フード買いすぎ 財布痩せ
- ・故郷の 母が待つ家 急ぎ足
- ・子らと飲む ビールのうまさ 再発見
- ・我が息子 工作中でも 返事くる
- ・夏祭り ときめいたのは いつの日か
- ・台風に 備え万全 肩すかし
- ・へとへとで ドアを開けたら 隣りんち
- ・学校へ 走って届けた ランドセル
- ・ゴミ奉行 偉そうにする 夫業
- ・どこ行くの 言っても忘れる お互いに
- ・年重ね あれで通じる 仲になり
- ・ボランティア 生きがい見つけ 若返る
- ・古い友 会ったその日は 若返る
- ・映画館 大事な場面を 寝て過ごす

他にも、書ききれないほどの作品が出来上がりました。

練習問題、虫食い川柳なども楽しみながら、各自の川柳を作った後は、全員で川柳の鑑賞会をして大いに盛り上がり、笑いあいの楽しい会でした。

また、熊田先生の直筆で、一人ひとりの作品を色紙に書いて頂き、「額に入れて飾っておきたいね～」と大喜びしました。私達の大切な宝物となりました。

川柳がとても身近になったという声、これを機会に日常の出来事にもっと目を向けて川柳をより楽しみたいという声を沢山いただきました。

熊田先生には、お忙しい中講義の時間をいただきまして有難うございました。先生のお陰でとても楽しい会になりましたことを心より感謝申し上げます。

次回おひさまの会は、11月5日（土）「コラージュを楽しみましょう」です。野毛山幼稚園教育会館2階にて14時～16時、講師は臨床心理士の井田佳子先生です。

皆様の参加をお待ちしています。

